

令和 7 年度 島根県立石見養護学校 第 2 回 学校運営協議会 【報告】

R7.10.24(金) 教頭

日時 場所	・ 令和 7 年 10 月 20 日(月) 石見養護学校 会議室
-------	----------------------------------

参加者	・ 学校運営協議会委員 6 名 (4 名欠席)
	・ 管理職、各学部主事、子ども支援部長他 9 名

議事	・ 学校評価 (中間)
----	-------------

特別支援教育 センター的機能	・ 説明
	・ 疑似体験

校則改定	・ 生徒指導提要の説明
	・ グループワーク

意見交換内容	
学校評価 (中間)	・ A が多く順調と感じた。B は A でもよいと思うが、どうしてか。 ☞ 評価基準として自己評価が 90%で、少し下だったため B となった。 ・ 評価基準が高すぎると感じた。 ・ A 評価が多く、素晴らしい環境で一人一人に向き合ってもらっていると感じた。 ・ 評価が高く良いと思った。今後、後半に進んでいくが、前半での評価を受けて後半の取組に生かしていくのか。 ☞ ◇が後期に向けて改善していく内容。 ・ 評価が高くびっくりした。おおなんの〇〇の発行は、毎週発行でがんばっておられると思った。 ・ ヒヤリハットはどんなものでどのくらいでているのか。 ☞ 昨年が 10 件、今年度が 4 件 ・ 地域の資源を学習につなげてもらい、ありがたい。引き続きお願いしたい。 ・ 評価方法について、どのような話し合いをしたか聞きたい。 ☞ (高) 目標について、生徒、教員にアンケートをとった。アンケートを集

	約し、学部会で検討した。(舎)生徒の変容について指導員で話し合いをした。 ・評価が高くなるのは、評価指標に基づいて評価されている。定着していることは挙げなくてよいのではないか。◇のそこそこあることについて評価指標を見出していければよいのではないか。製造業では、改善提案制度で改善や是正の提案、予防的提案を出してもらっている。こういうことがあるかもしれないということを考え、改善提案の提案件数をあげることを目標にしてはどうか。そこから良いアイデアがでてくるかもしれない。 ☞今年度は対話を大切に取り組んでいる。評価指標の設定が難しい。子ども達に対応するのにいろいろな価値観がある中で議論し、検討している。取り組みのプロセスが大切と考えている。議論して提案して取り組んではいるが、マンネリ化もあるので、来年度に向けて検討していきたい。
特別支援教育 センター的機能	・相談支援関係を中心に説明 ・疑似体験 ※一定のリズムで「あいうえお」と50音を発声しながら、提示された文章がどの程度読み取れるかを体験。
校則改定	・生徒指導提要の概要 ※「支える」生徒指導への転換 ・グループワーク ※「生徒心得」について、見直し優先順位をつけて分類する活動。 ・昔のルールは、これはダメと押さえつけられるイメージ、生徒が考え、やってみようとするのが生徒の成長につながると思う。 ☞子どもだけでなく、保護者、教員も一緒になって考えていきたい。 ・文言も考える必要がある。「〇〇した方がいい」「〇〇したら人として尊敬できる」「〇〇したら人の役にたつ」など ・社会的常識としたことは限定してよいが、「〇〇しましょうという表現が良い」と思う。 